

氏 名	木曾 洋平
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 甲第 7194 号
学位授与の日付	2025 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 機能再生・再建科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	The use of biologic disease-modifying antirheumatic drugs does not increase surgical site infection or delayed wound healing after orthopaedic surgeries for rheumatoid arthritis (生物学的製剤の使用は、関節リウマチに対する整形外科手術後の手術部位感染や創傷治癒遅延を増加させない)
論文審査委員	教授 座間味義人 教授 本田知之 教授 堀田勝幸

学位論文内容の要旨

関節リウマチ (RA) 患者に対する整形外科手術における手術部位感染 (SSI) および創傷治癒遅延 (DWH) の発生率を調べ、生物学的製剤 (bDMARDs) の使用がリスク因子となるかを検討した。

RA 患者に施行した整形外科手術 965 件の診療録を後ろ向きに調査し、bDMARDs 使用の有無で SSI 及び DWH の発生率を比較した。さらに Propensity Score (PS) マッチングで両群の臨床背景を調整し、発生率を比較した。単・多変量ロジスティック回帰分析を用いてリスク因子を評価し、術後の疾患活動性の再燃 (flare up) の発生率も検討した。

bDMARDs 使用群/非使用群は 414/551 例で、全体で SSI は 12 例、DWH は 28 例に認めた。それぞれの群で SSI は 3/9 例、DWH は 17/11 例に認めたが、両群間に発生率に有意差は認めず、PS マッチング後も両群間の発生率に有意差は認めなかった。SSI のリスク因子は同定されなかったが、手術時年齢、足部・足関節手術、糖尿病、筋骨格関連の感染歴が DWH のリスク因子として同定された。flare up は 21 症例に認めた。

当施設での bDMARDs 休薬プロトコール下では、bDMARDs の使用は SSI および DWH の発生率増加との関連はなく、flare up も比較的少なかった。

論文審査結果の要旨

本研究では、関節リウマチ (RA) 患者に対する整形外科手術における手術部位感染 (SSI) および創傷治癒遅延 (DWH) の発生率を調べ、生物学的製剤 (bDMARDs) の使用がリスク因子となるかを検討した。RA 患者に施行した整形外科手術 965 件の診療録を後ろ向きに調査し、bDMARDs 使用の有無で SSI 及び DWH の発生率を比較し、リスク因子を評価した。bDMARDs 使用群/非使用群の発生率に有意差は認めず、PS マッチング後も両群間の発生率に有意差は認めなかった。SSI のリスク因子は同定されなかったが、手術時年齢、足部・足関節手術、糖尿病、筋骨格関連の感染歴が DWH のリスク因子として同定された。

委員からは、本研究で実施した傾向スコア解析の手法や、bDMARDs の各種製剤における効果の違いについて質問があった。本研究者は、研究結果から得られた考察を今後の展望も交えて回答した。

本研究は、関節リウマチ (RA) 患者に対する整形外科手術における bDMARDs) の使用のエビデンスとなる価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。